



Title	東淀川区の在宅医療連携を考える会 ‘こぶしネット’ の取り組み
Author(s)	早川, 久美子
Citation	大阪公衆衛生. 2014, 85, p. 10-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78796
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

東淀川区の在宅医療連携を考える会“こぶしネット”の取り組み

早川 久美子

東淀川区役所 保健福祉課

1. 2012年度「在宅医療連携拠点事業」について

東淀川区では、2010年より東淀川区医師会と淀川キリスト教病院が共催で「東淀川区の在宅医療連携を考える会」（以下「考える会」という）を開催し、在宅医療の質向上と連携促進に向けて、意見交換が行われて来ました。

そのような中、2012年度に淀川キリスト教病院が厚生労働省の「在宅医療連携拠点事業」を受託し、医師会及び区役所へ協力依頼があり、連携してこの事業に取り組むことになりました。

この事業は、①多職種連携の課題の抽出、②在宅医療従事者の支援、③効率的な医療提供のための連携、④地域住民への普及啓発、⑤人材育成を5つの柱として、在宅医療に関わる多職種の連携を進めていく取り組みです。

この取り組みを進めていくために、「考える会」に歯科医師、薬剤師、訪問看護師、包括支援センター、介護事業所、区役所等も参画し、毎月コアメンバー会議を開催し、様々な検討を行いました。まず、「考える会」参加者への「在宅医療連携に関するアンケート調査」により多職種連携にかかる課題を抽出し、4つのワーキンググループを立ち上げました。

ここでは、①情報共有のシステムづくり（入院時の情報共有の書式の統一、救急カプセルの情報内容の検討）②在宅移行パスの作成（心不全の“日常生活チェックリスト”を作成）③地域住民への普及啓発（市民公開講座の開催、在宅医療に関するパンフレット～ご存じですか？在宅医療～作成）④社会資源マップの作成（医療、介護の担当者向け情報の収集）について具体的な検討を行いました。

また、「考える会」では、「医療と介護の連携について～いけ！ネットの現状と今後の課題～」「ケアマネジャーの多職種連携」「薬剤師による在宅訪問の実例」「在宅医療連携の実際～病院から在宅への移行事例報告」といったテーマで研修及びグループ討議を実施し、各職種の役割について理解を深め、「在宅医療連携」についての課題を共有することができました。

当区もコアメンバー会議やワーキンググループ、

研修会に定期的に参加するとともに、当区が目指す「災害に強いまちづくり」や「孤立死ゼロ」の取り組みを進めるには在宅医療にかかる「多職種の連携」が欠かせないと考え、「考える会」には区長も積極的に参加し、意見交換を行って来ました。

2. 2013年度“こぶしネット”として新たにスタート

厚生労働省の委託事業は2012年度で終了しましたが、これまでの活動の総括と今後の方向性の検討を行った結果、2013年度からは実行委員会を立ち上げ、医師会が事務局となり引き続き活動していくことになり、愛称を“こぶしネット”と名付けました。

当区としても、在宅医療推進にかかる区民啓発と人材育成は行政課題でもあるとの認識に立ち、引き続き月1回の実行委員会やワーキンググループに参加しています。特に区民への啓発については、すべての地域で発足した「地域活動協議会」と連携して取り組むことが効果的であると考え、各地域で学習会が開催できるよう働きかけました。11月にはS地域において、地域・三師会・包括支援センター・区役所が連携して、「在宅医療に関する学習会」を開催しました。当日は71名の区民が参加され、医師会医師による講演および三師会・包括支援センターによる個別相談を実施しました。区の広報紙でも「こぶしネット」の取り組みを紹介し、現在も他地域での学習会開催に向けて準備を進めているところです。

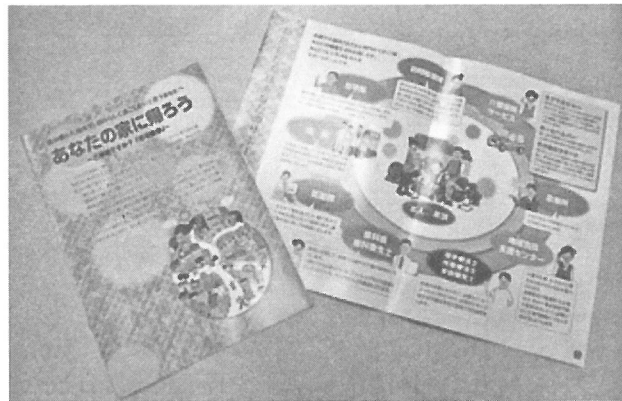
今後も「こぶしネット」メンバーとして実行委員会や研修会を通じて多職種連携の実態を把握し、日ごろの活動に活かすとともに、「在宅医療連携」に関する区民の理解促進に向けて取り組んでいきたいと考えています。



「こぶしネット」学習会の様子



地域学習会の様子



啓発リーフレット